福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（4 月分）

留学先大学 ：ラトガース大学

氏名：内藤　来

＜はじめに＞

最後の月例報告書になりました。今回は交換留学を通して気づいたことが一つあったので、そのことを最後の報告書の内容にしようと思います。

＜アメリカで見る外国人と日本で見る外国人＞

日本で私たちが接するような外国人、例えば留学生などは基本的には日本に好意的な印象を持っています。特に日本で学ぶ外国人の留学生は日本が好きということで日本での留学を選んでいるので、私たち日本人も日本で過ごしている限りは外国人に対してなにかマイナスなイメージを持つことは少ないのではないのではないでしょうか。

しかし、アメリカの場合は少し特殊で事情が異なってくると思います。アメリカで学ぶ学生というのは必ずしもアメリカが好きだからという理由でアメリカを選んでいるわけではありません。アメリカの大学を卒業したという名目を得るためにアメリカに留学している学生も多いです。例えば、聞いた話によると、ラトガースに正規留学している中国人留学生の多くは中国国内の名門大学に落ちた結果、親がこどもをラトガースに留学をさせているそうです。実際にそのような生徒はブランド物をいつも身に着けていたり授業でもあまり集中していなかったり、中国人だけで集まっていたりしていることが多いです。その関連性は 100%とは言えませんが、留学を通して実際に見てきた私にとってもおそらくそうなのだろうと思います。アメリカ人の友達もそのような中国人に対しては正直悪いイメージしかないと言っていました。

そこで日本にいる時にわずかながら感じていたことを思い出しました。というのは、今の日本では外国人に対してネガティブな発言をする、ネガティブなイメージを持つことそのものがタブーになっているような雰囲気があると思います。世界的に見てもその傾向はあるように思

えます。現在でも 200 万人以上の在留外国人が日本で生活していますが、グローバル化がこれからまた進むにつれて外国人の数は増えていくと思います。また以前入管法が改正されたように、日本が好きだから来るというのではなく日本でお金を得るためにくるというような外国人もこれから増えていきます。

実際に寮で外国人と生活を共にしましたが、私としてはとてもストレスのたまるものでした。もちろん私がなにかストレスを与えてしまっていたこともあると思いますが、もし私が日本人のルームメイトを選べるとしたら間違いなく日本人の人を選びます。これは差別ではなく普通のことだと思います。文化が違うから、というだけで異文化を背景に持つ人のすべてを受け入れられる人はとても少ないのではないのでしょうか。最近は頻繁に多様性というワードが肯定的に使われ、多様な形を受け入れることの重要さが説かれていますが、文化の多様性という面において、私はその傾向に違和感を感じています。各々の国が各々の文化を持っているのが多様性なのであって、各々の国の中で多様性を作ることは最終的に多様性をなくすことではないのか、と思います。もちろん可能性としてグローバル化が各国の文化を進化させて多様性が保たれる可能性もあるのですが、私個人としてはそれよりもより文化が一つに収斂してしまう危険性のほうが高いように見えます。排他的になることはいけませんが、異文化というものに対してもう少し批判的に見ることも大切なのではないか、と考えるようになりました。

＜おわりに＞

あまりまとまりがない文章になってしまいましたが、留学を通して異文化というものに対する見方が大きく変わりました。これほど長い間日本の外で生活することはもう人生の中にないと思いますし、とても貴重な経験になりました。ラトガースは素晴らしい大学です。これから続けて福井大学の生徒がラトガースに留学してほしいと思っています。

報告書は毎回いろいろなことについて書いてしまったので、読みにくいものになってしまっているような気がしていますが、これから留学しようと思っている人にとって少しでも参考になることがあれば嬉しいです。ありがとうございました。